

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	2295300137		
法人名	株式会社 アース		
事業所名	グループホーム まーがれっと藤枝		
所在地	静岡県藤枝市茶町4丁目18-5		
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 15 日	評価結果市町村受理日	令和4年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2295300137-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	令和 4 年 1 月 21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まーがれっと藤枝 事業所目標「自分らしく居られる家」 売り「あなたの夢を叶えます」 この目標に対し、職員全員で取り組んでいます。自分の家のように安心して過ごして頂けるよう、その方に合った支援方法を提案させていただいております。 職員との信頼関係ですが、入居者様同士の信頼関係も気付けるよう、職員が間に入り会話のきっかけになるように支援しています。 コロナウイルス流行の為、外出・面会等今までのようにできなくなってしまいました。その中でも入居者様に楽しくまーがれっと藤枝で過ごして頂けるようレクリエーションの充実を進めているところです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員同士意見が言いやすく、情報の共有もなされていてチームワークが良い。研修や会議では職員の考えやアイデアを運営に反映する仕組みが出来ている。コロナ禍で外出や行事の参加の機会が減ったが、代わりに季節に合わせた運動会や食レク、皆で取り組む掲示物等レクリエーションを充実させている。散歩やドライブ、初詣等感染対策を行いながら実施している。運営推進会議の資料は事故報告やヒヤリハット、行事の写真や利用者の日常の様子など詳しくのせ、近況がわかり家族からも好評である。職員間の引継ぎはシート方式の伝達により活発となり、職員のやる気を引き出すことができた。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	クレドカードを職員全員が名札の裏に所持し、いつでも確認できるようにしている。月1回のミーティングの時に 参加者全員で唱和し、会社の理念の共有に勤めています。	法人の理念は月例ミーティングの時に唱和し、理念の共有と確認を行っている。理念に基づき事業所と個人の目標を設定し、個人の目標は半年に1度の人事考課の際に評価を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が毎月第3土曜日の19時からの組長常会に参加し、地域との情報共有に努め交流しています。利用者様と散歩に出かけた際、近所のお宅の前に設置されている無人販売を購入させていただくこともあります。	コロナ禍の最中であるため、地域との付き合いは疎遠となっているが、平常時は自治会に加入し、管理者は組長常会に毎月出席しており、参加できる行事には利用者と職員が一緒に参加していた。中学生の職場体験も毎年受け入れるなど地域との繋がりを大事にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルス流行のため中止していますが、藤枝中学校の職場体験で生徒さんを受け入れをしています。グループホームについて、認知症について等、知って頂く機会、そして、福祉の仕事に興味をもってくれる機会になればいいと考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議がコロナウイルス流行の為、書面での報告をしています。ご意見・ご助言をいただき、内容を検討しながら今後の介護力の向上に努めサービスの向上に努めています。	コロナ禍の折り書面開催となっているが、議事録を町内会長、民生委員、行政・包括支援センターの職員、家族に渡して意見をもらっている。議事録資料は写真を多く使い、事故報告やヒヤリハット等丁寧に報告されていて委員との情報共有ができています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議資料を確認して頂き、助言をいただいています。またコロナの情報等メールを送って頂き確認しています。	行政には運営推進会議議事録を手渡しで行い、その際、意見やコロナ関係の情報交換をする関係が出来ている。事業所から水害対策のマニュアルを提出するなど関係づくりを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員を中心に身体拘束廃止の為の、会議を2か月に1回、身体拘束についての研修の年に2回実施し、理解に向けて取り組んでいます。	身体拘束適正化委員会は担当職員を中心に2か月に1度開催されており、指針、マニュアルも整備されている。身体拘束に係る研修は年2回行われており、本部からの指導のもとテーマを決めて実施されている。	

静岡県(グループホームまーがれっと藤枝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の外部研修に行きたい場合、参加できるように勤務の調整をできるようにしています。外部研修に参加できていないのが現状です。 内部研修で虐待についてを年2回計画を立てています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	マニュアルのファイルに入れてあり、いつでも見れるようになっています。管理者、職員共に研修に参加しこれから知識を学んでいきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、契約書に基づき説明をおこなっています。ご質問等あれば都度説明をさせていただきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議資料を確認して頂き、助言をいただいています。ご家族には、面会の時に少し時間を頂き要望やご意見を伺い施設運営に反映させています。	入居時に本人、家族からの要望を丁寧に聞き取り、ケアプランに反映するとともに、家族が面会に訪れた機会には利用者の状況や暮らしぶりをできるだけ詳しく報告をし、意見や希望を汲み取りながら運営に反映している。	前回の外部評価で家族アンケートを取りたいと考えていたが実現できていないので、家族アンケートの実施に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングで意見を聞き、話し合い、反映をさせています。	月に1度職員ミーティングを開催していて、職員からは活発な意見交換がなされている。また今年度から気づきや意見を紙に書いて貼る方式を採用し、誰でも確認できることでさらに意見交換がしやすく、職員からのアイデアも出るようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度で月に1回の面談をします。職員の状況を把握し、目標に対しての頑張りや困っているところ等を聞きます。頑張り进行评估するものになっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度の内部研修を実施しています。必要な外部研修にも参加の調整ができるようにしていますが、現在は参加があまり出来ていません。不安な部分は職員同士、確認をしながらケアの方法を考えたり、PTに相談をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡協議会に定期的に参加しています。お互いに行き来しているかなど確認したり外部の事業所との連携に取り組んでいます。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まーがれっと藤枝での生活に安心して頂くために、コミュニケーションを大事にしています。本人の状態観察をし、何が必要かを考えています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の面会時には、最近の様子を伝え、家族の思い、要望を聞いています。信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面談では、本人や家族に聞き取りを行い、本人が施設で安心安全に生活するために、何が必要なのかを一緒に考えています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アースの理念「快互」を目指し、お互いに快い時を過ごせるよう、関係づくりをしています。洗濯量み等できることを一緒に行っています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	3か月に1度、ご家族様に日々の様子を知って頂くために、報告書を作っています。本人の様子を共有し、共に支えていく関係作りにも努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前は、近所の方が見えてくれたこともありましたが、最近は減ってしまっています。時々、親戚やお孫様、ひ孫様が面会に見えてくれることがあり、とても喜ばれます。	コロナ感染防止のため、家族の面会はZOOMや窓越し面会で実施していたが、10月、11月は玄関で短時間の面会を再開した。散歩で外出の際には近所の馴染みの人と挨拶を交わしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	言葉が少なく、利用者様同士が関わる事が難しい方も多いです。職員が間に入り関わりを持てるように努めています。利用者様の相性もみながら、席替えをし、配慮することもあります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用の終了した方との関わりは、ほとんどないです。 終了後、落ち着いた頃、リハパンやパット等、使わないのどと持ってきてくれる方もいます。ご相談があれば、相談に努めたいと考えています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時の聞き取り、普段の職員との関わりの中で知った情報を共有しています。本人の体調や、表情、いつもと違うところにも注意しながら、観察もしています。	利用者個々にきめ細かく対応するため、職員を担当制にして支援に努め、入居時には本人、家族の情報を職員全員で共有し、担当者は利用者の誕生日イベントなど積極的に企画を行い実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントにて、生活歴、趣味嗜好を伺うこと、会話の中より、昔の話を伺う事で把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的な生活の中で、過ごし方、健康状態等、変化に注意しています。また自立支援のため、いつもと違うことがないか、情報の共有をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回、ケアカンファを行いケアプランに沿って評価します。それをもとに担当者会議にて、ご家族の意見を伺いケアプランに反映させています。	カンファレンスは月のミーティングの時に全員分行い、モニタリングはケアマネジャーが3か月ごとに担当職員の意見や他の職員の意見を聞いて作成している。介護計画書の更新の際には家族に連絡し意見を伺う仕組みができている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、気づき等記録に記入し、共有をしています。検討が必要なものについては、その都度対策を考え、実施し評価しています。		

静岡県(グループホームまーがれっと藤枝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化のある利用者様の状態、ニーズに関しては、その都度検討し、まわりの協力を得る取り組みに努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は出来ていないです。ボランティアさんの慰問等、コロナウイルス流行が収まったら再開していきたいです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医に小さなことでも不安なことはその都度相談しています。他の科の受診が必要な場合は、家族に相談し、適切な医療対応を支援しています。	月に2回協力医の往診を利用者全員が受けている。協力医は24時間365日急な体調不良時にも相談ができ、他科の初期対応にも応じてくれる。また月に1回歯科の口腔ケアを受け、治療が必要な場合は往診をしてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度、提携している訪問看護師がお客様の様子を診に来てくださいます。日々の情報や気づきを報告・相談し指示を仰いでいます。そのほか24時間体制で、相談可能となっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院から退院までの間に連絡を取り合い、情報をもらい、退院準備を整えます。情報を職員間で共有し、今後のケアに活かします。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じ、今後の方向性について検討する話し合いを設けます。ご家族の意向を確認し、最善を尽くせる支援に取り組んでいます。	入居時に重度化終末期の指針の説明を行ったうえ、本人家族の意向や希望を確認し、看取りが必要となった場合は医師、家族、事業所で話し合い、家族の意向を重視して支援している。看取りに関する研修は月例ミーティングでも取り上げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度内部研修で、1月に緊急時対応を行う予定です。実践的なものは出来ていないため、課題です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内では、年に2度防災訓練を予定しています。併設の複合型ナーシングケアもも藤枝と合同で行います。 毎月の組長常会に参加し、情報共有をしています。	防災訓練は年に2回テーマを決めて行っている。今年度は厨房からの火災を想定して行い、同時に水害の垂直避難と夜間想定訓練も行った。災害備蓄品として米や水が備わっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格や生活歴等、また関わっていく中で、お客様一人一人に合った声掛けをしています。排泄や入浴等プライバシー確保が必要な所は、声の大きさや、伝え方に配慮しています。	個人情報の尊重については入社時に研修を行い、必要に応じて内部研修を行っている。利用者には丁寧な言葉使いを心がけるようにしているが、伝えにくい事等は申し送りノートで情報を共有し、問題が散見された場合はホーム長が都度注意し、月例ミーティングで取り上げて運営に反映している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを傾聴し、想いや希望が言えるよう、表せるように聞くことを大事にしています。発言を阻止しないよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	団体生活のため、皆さんで行う事が多いですが、強要はせず、ご自分のペースで過ごして頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え時・入浴時等、一緒に服を選んだり、月に1度の訪問理美容では、自己決定できる方は本人の希望を聞きお願いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前に、テーブルを拭いていただいたり、自分で下膳できる方は行って頂いています。おやつ作りや、食事レク等、楽しむ時間を提供できるよう努めています。	調理専門員が配置され、2ユニット3食分を調理し、手作り感のある食事を提供している。利用者は食器洗いや食器ふき等、できることをしてもらっている。月に1回はおやつ作りや食事レクを楽しんでいる。コロナ禍前はテイクアウトの食事をするなど食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量細かく記入をしています。水分の少ない方には、声掛けや、別の時間プラスで提供、また飲み物の種類を変えたりと工夫しています。		

静岡県(グループホームまーがれっと藤枝)

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っています。御本人にあった道具や方法を実施できるよう、口腔内の観察に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表の確認をしながら、声掛け、トイレ誘導を実施しています。その方が自分で行おうとする意志を確認しながら、自立に向け支援しています。	排泄表を参考に入居者個々のパターンを把握し、トイレへの声掛けや誘導を行い、利用者が自立でトイレへ行きたい意志を大切に考え、できるだけトイレでの排泄を支援している。現在ポータブルトイレを使用している利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの取れた食事を提供し、水分摂取量にも気をつけています。レクの中にも体操を取り入れ、便秘予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その方の状況や、タイミングを見ながら、声掛けをし入浴をしています。拒否のあった場合は順番や日を変え対応しています。	週2回の入浴を基本として1日3人を目安に午前中の中の入浴支援を行っている。体調や入浴拒否のある利用者には入浴の順番や担当職員を変えるなど、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節により、温度や、寝具を調整しています。 また、昼間も御本人の様子や希望にて休む時間を作っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬・配薬ミスが無いよう、服薬時・配薬時それぞれダブルチェックをし確認をしています。 状態の変化を見逃さないように普段の行動から気を配っています。 薬については薬ファイルを作り、すぐに確認できるよう管理しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんだり、新聞を折ったり。出来る事を分担して行っています。また散歩に出たり、縫物をして頂いたり、一人ひとりに合わせて支援しています。		

静岡県(グループホームまーがれっと藤枝)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は1人に職員1人の対応、またコロナウイルス流行もあり外出が減っているのが現状です。個々に散歩等外の空気に触れる機会を増やせるように努力しているところです。 誕生日にその方の夢(願い)を叶える事を売りにしており、ご家族と一緒に食事に行くこともありました。現在は施設内で行えることを提供しています。	コロナ感染防止に努めながら、施設近くの無人販売所に果物を買いにい出かけるなど外気浴に配慮し、ドライブでの外出も継続している。誕生日を迎える利用者には、その人の夢や願いを聞き、家族との食事会を行うなど希望に沿った取り組みを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の自己管理が難しいため、現状は買い物に行き、自分のお金を使う機会がないです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族には、事前に連絡対応が可能かどうか、時間日時等の確認をしてから、連絡しています。難しくなっているのが現状です。ご自分で携帯電話をお持ちの方は、自由に使用して頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間、各居室の清掃は毎日行っています。空調設備、加湿器を使い、温度・湿度には気を付けています。 居間には季節を取り入れた飾りつけを、レクで皆さんと作っています。	南向きの居間は陽が入り明るく、空調設備や加湿器で温度、湿度等快適な生活環境に配慮し、コロナ感染防止に注意を払いながらこまめに清掃を行っている。廊下や居間には職員と利用者が作成した季節を感じる作品を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	様子を見ながら、席の配置を工夫しています。また、ソファや畳等どこにでも座れるよう、状況により声をかけています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の使っていた物を置いている方、物があると落ち着かなくなったり、危険の可能性がある場合、家族と相談し、物を置かないようにしたり、その方に合わせています。	居室は洗面台とクローゼットが常設され、季節ごとに布団や衣類の衣替えを家族が行っている。利用者の好みにより使い慣れたものなどを持ち込んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険なものは片づけ、車椅子や歩行者が安全に行動できる空間を作るよう心掛けています。施設内、居室もトイレも同じ扉なため、わかりやすく張り紙をしたり、自分の名前を大きく見やすいようにしたりし、工夫しています。		